

運動有能感を高めるマット運動の学習

～互いに認め合い、高め合う、対話的な学習を通して～

1. 設定理由

体育科の目標である「生涯にわたって継続的に運動に親しむ態度を養う」という豊かなスポーツライフの実現のためには、体育科の授業で運動の楽しさを味わわせるとともに、自信をもって積極的に運動することができるようにする必要があると考える。平成 29 年 3 月に公示された次期学習指導要領では、「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養という三つの資質・能力を育成するよう示されている。また、これらの資質・能力を育成するために、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が求められている。子どもたちが、できるという自信をもって生涯にわたって運動に親しむことができるようにするために、主体的に学び続けて自らの能力を引き出し、試行錯誤したり、多様な他者と協働したりして、新たな価値を生み出していくことが求められると考える。

児童の運動有能感を高めていくことは、体育の学習がもっと好きになり、体育科の求める「豊かなスポーツライフの実現」につながると考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

シンクロマットを通して自他の課題に気付かせ、スモールステップの学習を通して仲間と技能ポイントを伝えあうことができれば、互いに認め合い、高め合うことができ、運動有能感が高まるだろう。

3. 研究内容

- 「マット運動」を通して運動有能感を高めるための授業実践
- 自らの課題や、グループの課題を見つけ、解決していくことができる学習指導の工夫
- 運動有能感に関わる調査、形成的授業評価、診断的・総括的授業評価、ビデオの映像よりパフォーマンス分析、仲間づくりの形成的評価票、学習カードによる分析

4. 結論

○互いに認め合い、高め合う、対話的なマット運動の学習をすれば運動有能感が高まることが推察される。

運動有能感を高めるマット運動の学習

～互いに認め合い、高め合う、対話的な学習を通して～

1. 設定理由

体育科の目標である「生涯にわたって継続的に運動に親しむ態度を養う」という豊かなスポーツライフの実現のためには、体育科の授業で運動の楽しさを味わわせるとともに、自信をもって積極的に運動することができるようにする必要があると考える。平成29年3月に公示された次期学習指導要領では、「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養という三つの資質・能力を育成するよう示されている。また、これらの資質・能力を育成するために、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が求められている。子どもたちが、できるという自信をもって生涯にわたって運動に親しむことができるようにするために、主体的に学び続けて自らの能力を引き出し、試行錯誤したり、多様な他者と協働したりして、新たな価値を生み出していくことが求められると考える。

本学級は、運動に親しみをもつ児童が多く、男女仲が良く肯定的な雰囲気で行われている。運動有能感については、3因子別に見ると、練習すればできるようになるという「統制感」、友だちや先生から認められているという「受容感」は非常に高いが、運動ができるという「身体的有能さの認知」が低い。そこで、これまでに築き上げてきた肯定的な子どもたちのかかわりを活かし、仲間と動きをそろえたり、仲間と達成感を味わったりすることができる「シンクロマット」を通して、さらに運動有能感を高めたいと考えた。器械運動においては、「できる」「できない」がはっきりしているため、スモールステップで学習を進め、互いに認め合ったり、高め合ったりすることで、成功体験を多く味わわせ有能感をもたせたい。成功体験や達成感を多く味わうことが、豊かなスポーツライフの実現につながると考え本主題を設定した。

2. 研究仮説

シンクロマットを通して自他の課題に気付かせ、スモールステップの学習を通して仲間と技能ポイントを仲間と伝えあうことができれば、互いに認め合い、高め合うことができ、運動有能感が高まるだろう。

3. 実践内容

- 「マット運動」を通して運動有能感を高めるための授業
 - 自らの課題や、グループの課題を見つけ、解決していくことができる学習指導の工夫
 - 運動有能感に関わる調査、形成的授業評価、診断的・総括的授業評価、ビデオの映像よりパフォーマンス分析、仲間づくりの形成的評価票、学習カードによる分析
- <対象> 6年児童（男子15人、女子14人 計29人）

①<単元計画>

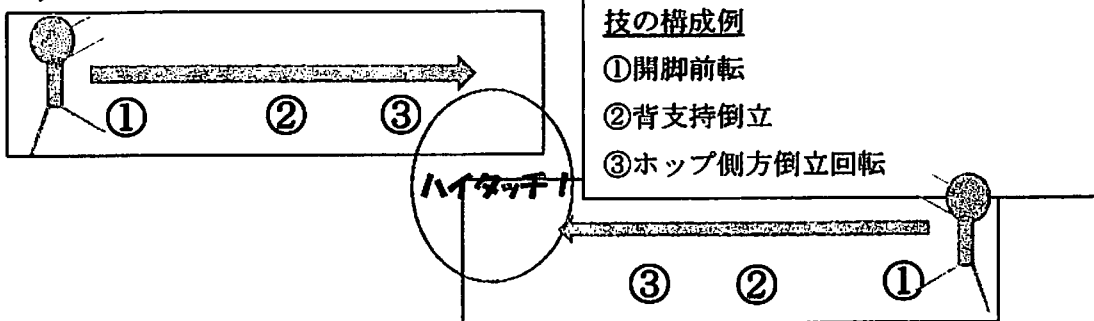
時間	1	2	3	4	5	6	7	8	
10	学習のねらいや進め方	<ドリル学習> ・手押し車前転・うさぎ跳び前転・とび箱を使った前転・補助倒立前転							
15	既習の確認	健康観察・課題確認							
20	準備・後片付けの仕方	ペアで回転系の技の練習 ・前転 ・後転 ・開脚前転 ・開脚後転 ・大きな前転 ・倒立前転 ・跳び前転 ・前方倒立回転跳び		ペアで倒立系の技の練習 ・補助倒立 ・倒立ブリッジ ・側方倒立回転		シンクロマット1 ・チームごとに振り返り <課題解決学習> ・ペア ・チーム			
25	試しのシンクロマット								
30									
35	練習方法の確認(ドリルのやり方も含む)	グループでシンクロマットの練習			シンクロマット2 (課題への再挑戦)				
40	学習の振り返り	シンクロマット							
45		・学習の振り返り ・整理体操 ・片付け							

②教材の工夫

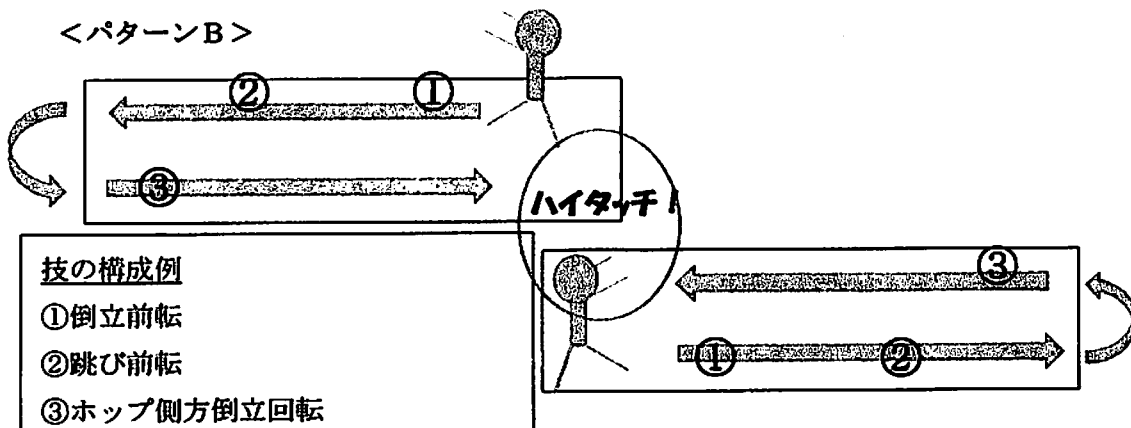
器械運動は、「できる」「できない」がはっきりしているために、自信をもてずにいる子が多い。そこで、互いに認め合い、高め合うことによって運動有能感を高めるために、「シンクロマット」を取り入れた。

グループの中でペアをつくり、向き合うような形で演技をしていく。同じ技をそろえるのではなく、互いにできるようになった技を3つ取り入れて、タイミングをそろえて行う形を取った。最後の技で、互いが向かい合い、ハイタッチをして終わるようにした。

<パターンA>



<パターンB>



④スモールステップ学習

「できた！」という成功体験を多く味わわせ、子どもたちの有能感を高めるために、スモールステップで指導をした。

スモールステップカードには合格の基準（技能のポイント）が示されていて、それをもとに子どもたちは教え合いをした。

一つの技につき、3つのポイントを示し、その3つが全てできて1ポイント。3ポイントたまったら次の技に進んでも良いこととした。

技名	ポイント		達成時間
	準備	動作	
1. 前屈	両足を揃えて立ち、手を頭の後ろで組み、息を吐きながら体を前に倒す。	背中を丸めず、肩甲骨を下げ、頭を下げずに倒す。	10秒
2. 前転	両足を揃えて立ち、手を頭の後ろで組み、息を吐きながら体を前に倒す。	背中を丸めず、肩甲骨を下げ、頭を下げずに倒す。	10秒
3. 前転	両足を揃えて立ち、手を頭の後ろで組み、息を吐きながら体を前に倒す。	背中を丸めず、肩甲骨を下げ、頭を下げずに倒す。	10秒
4. 前転	両足を揃えて立ち、手を頭の後ろで組み、息を吐きながら体を前に倒す。	背中を丸めず、肩甲骨を下げ、頭を下げずに倒す。	10秒

(マット運動 ステップカード)

⑤単元構成の工夫（課題を把握し、互いに「認め合う」「高め合う」時間を意図的に設定）

本学級の児童は、体育の学習の時には必ず「ペア学習」の形を取り、肯定的なかかわり合いができるように指導してきている。本実践では、単元の前半で技能のポイントや学習の進め方、練習方法の紹介等をして、マット運動の学習に必要な「知識」の習得を図った。単元の後半では、まず一回グループで「シンクロマット」に挑戦し、そこで明らかになった課題をペアやチームで克服する時間を設けた。そして、最後にもう一度シンクロマットに挑戦し、課題の克服の時間を設けた。

⑥学習カードの工夫

学習カードには、友だちから言われて嬉しかったこと、役に立ったことを記入させた。また、自分の課題については、何の技を、どのように練習して、どうなったのかを記入させた。このことにより、自分の課題をきちんと把握し、ペアの友だちに自分の課題を伝えるようにさせた。

自分の課題	
友達から言われて嬉しかったこと	
役に立ったこと	
自分の課題	
何の技を、どのように練習して、どうなったのか	

(2016年度千葉県長期研修生 佐々木優先生の実践を参考に)

5. 分析と考察

(1)教材の工夫について

表1より、シンクロマットの学習を通して、運動有能感が高まったことがわかる。t検定を行ったところ、「身体的有能さの認知」と「総合」において、1%の水準で有意差が見られた。【感想1 児童Aの感想の一部】には、仲間とのかかわりによってできるようになったと記載されていたことから、仲間とのかかわりながら認め合ったり、高め合ったりすることが「できる」という自信につながり、有能感が高まったということが考えられる。有意差は見られなかったが、「統制感」「受容感」についても数値が向上していることから、有能感が高まったと考えられる。

図1の仲間づくりの形成的評価票より、「集団的相互作用」「集団活動への意欲」は、単元の始めから終わりまで高い数値を示し続けていた。

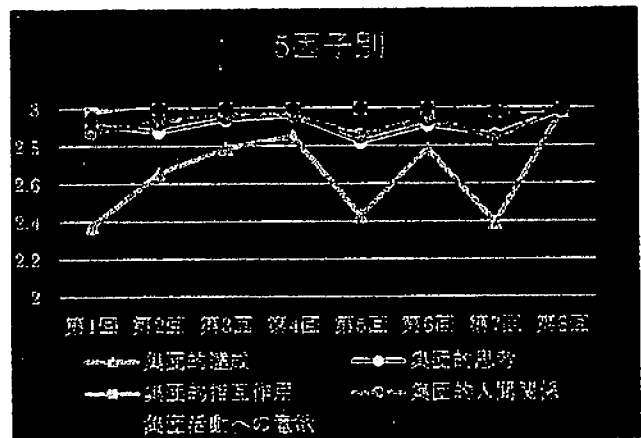
このことから、シンクロマットの学習を通して、互いに認め合ったり、高め合ったりすることができたということがわかる。「集団的思考」「集団的人間関係」については、高い数値を示し続けてはいるが、達成感を味わっていないときに数値が低くなる傾向が見られた。

このことから、個人の課題だけでなく、仲間の課題も意識してとりくんでいたと考えられる。「集団的達成」については、第5回と第7回で数値が下がっている。これは、感想2にも書かれているとおり、難しい技を取り入れる児童が増えたため、動きが合わなくなったことが原因だと考えられる。そのため、できる技で挑戦することや、演技の構成についての助言をした。

(2) スモールステップ学習について

① 形成的授業評価からも「成果」「意欲・関心」の数値が高いことがわかる。単技の練習をペアでとりくみ、スモールステップカードを用いて互いに技能ポイントを伝えあった。自分の技の見てほしいところ、その技に対してのアドバイスが明確になっているため、小さな成功体験を重ねながら達成感を味わい意欲的に学習にとりくむことができたと考えられる。

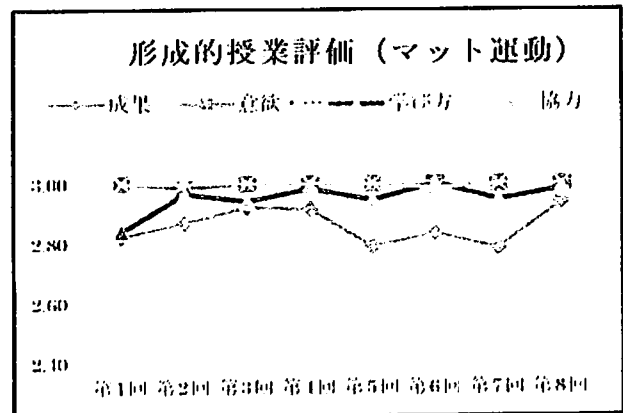
表2より、単元前と比べてできるようになった技が増えていることが分かる。このことから、スモールステップで学習を進めたこと、技のポイントをペアで伝え合ったことが、技能を伸ばす上で有効であったと考えられる。



【図1 仲間づくりの形成的評価票】

- ・技の完成度が低くてバラバラになってしまった。
- ・つなぎの技ができずにうまく組み立てられなかった。

【感想2 児童の学習カードより】



【図2 形成的授業評価の推移】

【表2 技の習得に関する調査】

技	単元前(人)	単元後(人)	基準
跳び前転	17	25	「く」の字でふところを大きく開けて前転ができる。
開脚前転	17	23	開脚(膝が伸びている)立ちができる。
開脚後転	15	25	開脚(膝が伸びている)立ちができる。
側方倒立回転	15	23	倒立姿勢を経過し、50cm幅の中で側方立ちができる。
倒立前転	3	18	倒立姿勢で1秒静止してから、前転ができる。

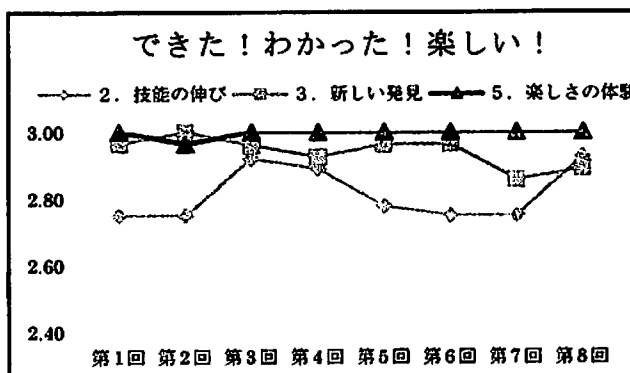
② 「できた」「わかった」「楽しい」の関係から子どもたちは、単元を通して楽しんでいくことがわかる。しかし、新しい発見と技能の伸びは伴っていない。これは、単元前半で知識を与えたことから後半では目新しい発見はなかったと推察される。

また、5、6、7時間目では、「わかっているけれどもできない」状態が続いていると考えられる。子どもたちはできない状態が続いていたが、表3の「時間外学習」の向上から楽しく意欲的にとりくんでいたと考えられる。朝や休み時間に体育館に行き練習をする姿が毎日見られたことが、最終回の技能の伸びにもつながったと考えられる。

(3) 単元の構成について

課題を見つけて再挑戦する場があることで、子どもたちの思考・判断を促すことになったと考えられる。子どもたちは自ら課題に気付き(主体的)ペアやグループで話し合うことで(対話的)試行錯誤(深い学び)しながら学習にとりくむことができた。また、次期学習指導要領で求められる授業改善に一步近づくことができた。また、次期学習指導要領で求められる授業改善に一步近づくことができた。また、次期学習指導要領で求められる授業改善に一步近づくことができた。

図4と図5は、上位児5人と下位児5人の形成的授業評価である。上位児については、常に高い数値を示している。しかし、成果については右上がりではない。これは、



【図3 形成的授業評価より】

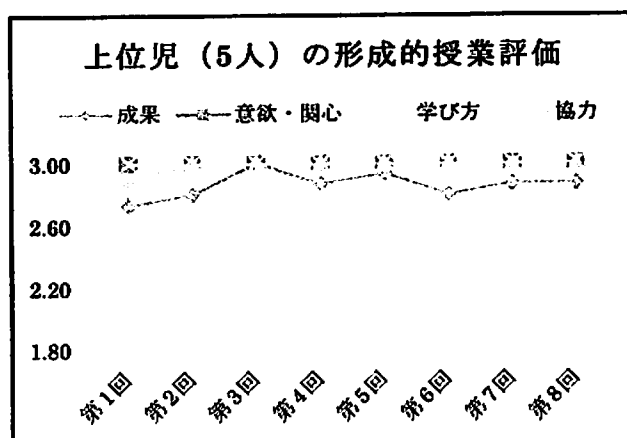
【表3 診断的・総括的授業評価より】

項目名	単元前	単元後	P値	有意差
時間外学習	2.69	2.86	0.1341	

n = 29 * : P < 0.05 ** : P < 0.01

・一回目の時にうまくいかなかった側方倒立回転が、二回目の時には膝が伸びてうまくいった。
 ・一回目は動きが合わなかったが二回目の時には動きが合った。

【感想3 児童の学習カードより】



【図4 形成的授業評価より】

難しい技に挑戦し、最後までできるように
 ならなかったことが原因だと考えられる。上
 位の児童にとっては、もっと練習の時間が必
 要だったとも考えられる。

下位児については、3時間目まではできる
 技が増えなかったり、どのようにアドバイ
 をしたら良いのかが分からなかったりした
 ために、評価が低いと考えられる。単元の後
 半では、できる技が増え、アドバイスの仕方
 や学び方が分かってきたために、評価が高く

なっていると考えられる。このことから、下位児にとっては、一回目で課題を明らかにして、
 何をすべきかということを理解してから練習に臨み、再挑戦をする場があったことが良かった
 と考えられる。

統制感について、単元の始めから高い数値を示していたが、単元後には若干の伸びが見られ
 た。「練習をすればできるようになる！」ということを実感し、有能感が高まったと考える。

※上位：表2の技が4つ以上できる。

※下位：表2の技が1つもできない。

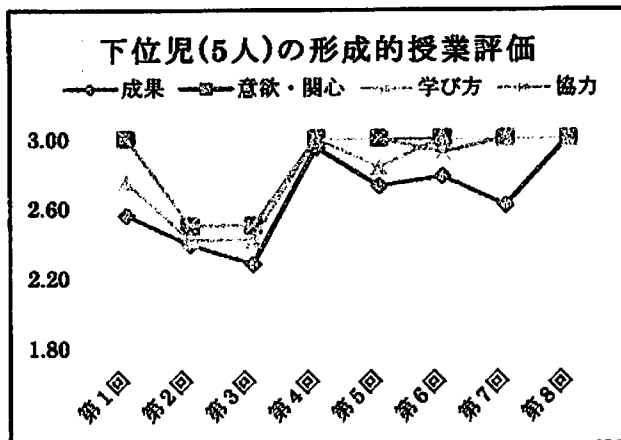
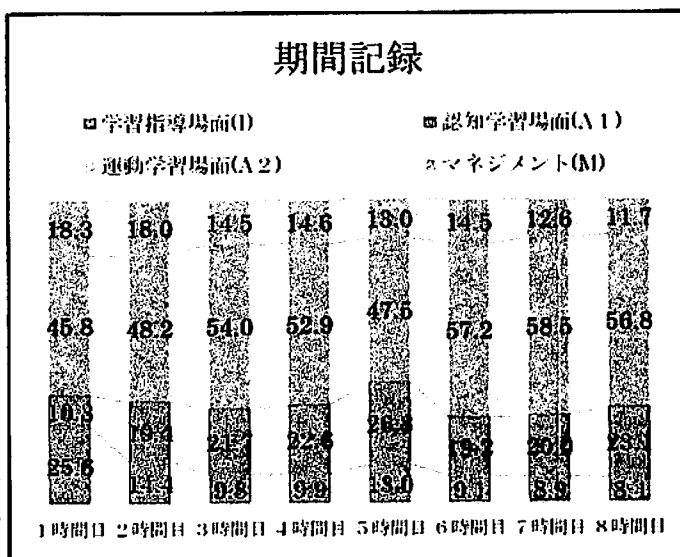


図6から分かるように、運動学習場面
 は、高橋ら(2003)が述べる最低50%
 が確保できた。また、単元後半にな
 るにつれて、学習指導場面やマネジメ
 ントが減っている。対話的な学びが中
 心となったが、運動量が減ることはな
 く、子どもたちの学習量を確保するこ
 とができた。運動学習場面における、
 子どもたちの試技数については、表4
 からわかるように、上位児、下位児に
 大きな差は無く、1分間に1~2回の
 試技数があったことから、練習の機
 会はあったと考えられる。



【図6 体育授業場面のコーディングシート (期間記録)】

【表4 運動学習場面における試技数】

	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目	7時間目	8時間目
運動時間 ※1	8分 50秒	10分 20秒	12分 50秒	12分 10秒	9分 30秒	14分	14分	13分 30秒
上位児	8回	17回	16回	18回	13回	27回	26回	25回
下位児	6回	16回	14回	15回	10回	25回	22回	23回

※1 ドリル学習、シンクロを除く、ペア練習、グループ練習の合計時間。

(4) 学習カードについて

学習カードには、友だちから言われて嬉しかったこと、役に立ったことを記入させたことで互いに認め合い、高め合うことができたと考えられる。また、自分の課題については、何の技を、どのように練習して、どうなったのかを記入させた。このことにより、自分の課題をきちんと把握し、ペアの友だちに自分の課題を伝えることができたと考える。

- ・開脚後転が上手くいかなかったので、マットの角を使って練習をした。
- ・側方倒立回転をゴム紐や手足のマークを使って練習したことでできるようになった。

【感想4 児童の学習カードより】

6. 成果と課題

(1) 成果

- ・シンクロマットを通して自他の課題に気付き、互いに認め合い、高め合うことで運動有能感が高まった。
- ・スモールステップの学習により特に下位の子どもたちが成功体験をたくさん味わうことができた。

(2) 課題

- ・本学級の児童は、スモールステップの学習により成功体験をたくさん味わうことができたが、スモールステップが正しい系統になっているのか今後も検証していく必要がある。
- ・シンクロマットは、仲間とともに作りあげる達成感はあるが、技能が高い児童にとっては、もっと難しい技に挑戦したいという欲求に対応できない場面もあったため、演技の行い方や技の内容についての改善が必要である。

【主な参考文献】

- 1) 高橋健夫 :『体育授業を観察評価する－授業改善のためのオーセンティック・岡澤祥訓 他 アセスメント－』2003
- 2) 白旗和也 :『これだけは知っておきたい体育の基本』
- 3) 「小学校学習指導要領 体育科」 文部科学省
- 4) 「小学校学習指導要領 解説編」 文部科学省

資料編

1. 運動有能感に関する調査 P 1
診断的・総括的授業評価
2. 仲間づくりの形成的評価票 P 2
3. 形成的授業評価 P 2～3
4. 学習カード P 4～7
5. 指導案 P 8～12

診断的・総括的授業評価

項目名	単元前		単元後		有意差
Q11 明るい雰囲気	2.97		2.97		1.0000
Q7 楽しく勉強	3.00		3.00		
Q2 心理的充足	2.93		2.97		0.3259
Q13 丈夫な体	3.00		3.00		
Q17 精一杯の運動	2.97		3.00		0.3259
たのしみ	14.86	+	14.93	+	0.3259
Q9 運動の有能感	2.56		2.66		0.3750
Q19 できる自信	2.76		2.97		0.0542
Q15 いろいろな運動の上達	3.00		2.97		0.3259
Q10 自発的運動	2.90		3.00		0.0831
Q6 授業的の気持ち	2.76		2.86		0.3259
できる	13.97	+	14.45	+	0.0660
Q3 工夫して勉強	2.86		2.97		0.1843
Q5 めあてをもつ	2.97		2.97		1.0000
Q8 他人を参考	2.93		2.93		
Q12 時間外学習	2.69		2.86		0.1341
Q16 友人・先生の励まし	3.00		3.00		
まなぶ	14.45	+	14.72	+	0.0578
Q4 自分勝手	2.93		3.00		0.1609
Q20 ルールを守る	3.00		3.00		
Q1 先生の話を聞く	3.00		2.97		0.3259
Q18 約束事を守る	3.00		3.00		
Q14 勝負を認める	2.97		3.00		0.3259
まもる	14.90	+	14.97	+	0.1809
総合評価	58.17	+	59.07	+	0.02834

0.05 > P *

0.01 > P **

体育授業についての調査

診断的・総括的授業評価
アンケート用紙

(月 日)

年 組 男・女 番 名前 ()

◎この文章を読んで、自分の考えにあてはまる場合は「はい」に○をつけてください。あてはまらない場合には「いいえ」に○を、また、どちらともいえない場合には「どちらともいえない」に○をつけてください。

- 1 体育では、先生の話をきちんと聞いています。 (はい・どちらともいえない・いいえ)
- 2 体育で体を動かすと、とても気持ちがいいです。 (はい・どちらともいえない・いいえ)
- 3 体育をしているとき、どうしても運動がうまくなるか各考えながら勉強しています。 (はい・どちらともいえない・いいえ)
- 4 体育では、いたずらや自分勝手なことをしません。 (はい・どちらともいえない・いいえ)
- 5 体育で運動をするとき、自分のめあてをもって勉強します。 (はい・どちらともいえない・いいえ)
- 6 体育がはじまる前は、いつもはりきっています。 (はい・どちらともいえない・いいえ)
- 7 体育では、みんなが、楽しく勉強できます。 (はい・どちらともいえない・いいえ)
- 8 体育をしているとき、うまい子や強いチームを見てうまくなるやり方を考えることがあります。 (はい・どちらともいえない・いいえ)
- 9 私は、運動が、上手にできるほうだと思います。 (はい・どちらともいえない・いいえ)
- 10 体育では、自分から進んで運動します。 (はい・どちらともいえない・いいえ)
- 11 体育は、明るくてあたかい感じがします。 (はい・どちらともいえない・いいえ)
- 12 体育で習った運動を休み時間や放課後に練習することがあります。 (はい・どちらともいえない・いいえ)
- 13 体育をすると体がしょうぶになります。 (はい・どちらともいえない・いいえ)
- 14 体育で、ゲームや競争で勝つても負けても練習に励めることができます。 (はい・どちらともいえない・いいえ)
- 15 体育では、いろいろな運動が上手にできるようになります。 (はい・どちらともいえない・いいえ)
- 16 体育では、友だちや先生が励ましてくれます。 (はい・どちらともいえない・いいえ)
- 17 体育では、せいじい運動をすることができます。 (はい・どちらともいえない・いいえ)
- 18 体育では、クラスやグループの約束を守ります。 (はい・どちらともいえない・いいえ)
- 19 私は、少しむずかしい運動でも練習するとできるようになる自信があります。 (はい・どちらともいえない・いいえ)
- 20 体育で、ゲームや競争をするときは、ルールを守ります。 (はい・どちらともいえない・いいえ)

運動有能感に関する調査

	単元前	単元後	有意差
Q1 運動能力がすぐれていると思います。	3.83	4.31	0.0080 **
Q2 たいいてい運動は上手にできます。	4.07	4.34	0.1033
Q3 練習をすれば、必ず技術や記録は伸びると思います。	4.97	4.90	0.1609
Q4 努力さえすれば、たいいてい運動は上手にできると思います。	4.66	4.62	0.6626
Q5 運動をしているとき、先生が励ましたり応援してくれます。	4.97	5.00	0.3259
Q6 運動をしているときに、友だちが励ましたり応援してくれます。	5.00	5.00	#DIV/0!
Q7 一緒に運動をしようと思ってくれる友だちがいます。	4.86	4.93	0.1609
Q8 運動の上手な見本として、よく選ばれます。	2.86	3.41	0.0384 *
Q9 一緒に運動する友だちがいます。	5.00	5.00	#DIV/0!
Q10 運動について自信をもっている方です。	3.59	4.31	0.0014 **
Q11 少しむずかしい課題でも、努力すればできると思います。	4.79	4.93	0.1609
Q12 できない運動でも、あきらめないうで練習をすればできるようになります。	4.93	4.93	1.0000

	単元前	単元後	有意差
身体的有能さの認知 ① ② ③ ④	14.34	16.38	0.000001365872 **
統制感 ④ ③ ① ②	19.34	19.38	0.8096
受容感 ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	19.83	19.93	0.0332527563
総合	53.52	55.69	0.000002335 **

0.05未満 *

0.01未満 **

運動有能感に関する調査

この調査用紙には、運動についての文章があてられています。それぞれの質問について、自分にあてはまると思う番号に○をつけてください。この調査は、あなたの成績とは関係ありません。

年 組 男・女 番 名前 ()

- 「よくあてはまる」..... 5
- 「ややあてはまる」..... 4
- 「どちらともいえない」..... 3
- 「あまりあてはまらない」..... 2
- 「まったくあてはまらない」..... 1

1. 運動能力がすぐれていると思います。 5 4 3 2 1
2. たいいてい運動は上手にできます。 5 4 3 2 1
3. 練習をすれば、必ず技術や記録は伸びると思います。 5 4 3 2 1
4. 努力さえすれば、たいいてい運動は上手にできると思います。 5 4 3 2 1
5. 運動をしているとき、先生が励ましたり応援してくれます。 5 4 3 2 1
6. 運動をしているときに、友だちが励ましたり応援してくれます。 5 4 3 2 1
7. 一緒に運動をしようと思ってくれる友だちがいます。 5 4 3 2 1
8. 運動の上手な見本として、よく選ばれます。 5 4 3 2 1
9. 一緒に運動する友だちがいます。 5 4 3 2 1
10. 運動について自信をもっているほうです。 5 4 3 2 1
11. 少しむずかしい課題でも、努力すればできると思います。 5 4 3 2 1
12. できない運動でも、あきらめないうで練習をすればできるようになると思います。 5 4 3 2 1

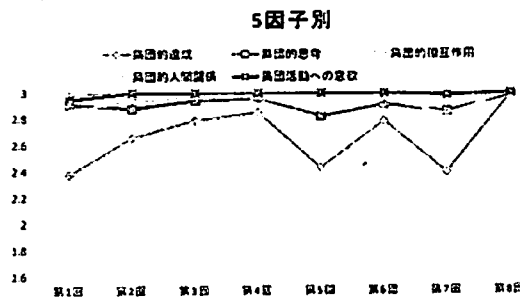
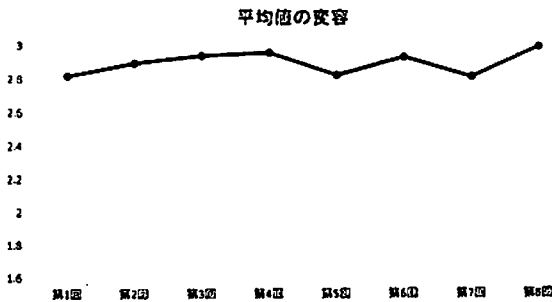
◎今日の体育の授業について感想します。下の1~9について、あなたはどのように思いましたか。
当てはまるものに○をつけてください

- 1 深く心に残ることで、感動することがありましたか。 (はい・どちらでもない・いいえ)
- 2 うまでできなかったこと(運動や作業)ができるようになりましたか。 (はい・どちらでもない・いいえ)
- 3 「あっ、わかった!」とか「あっ、そうか」と思ったことがありましたか。 (はい・どちらでもない・いいえ)
- 4 はいはい、金力をつくして運動することができましたか。 (はい・どちらでもない・いいえ)
- 5 楽しかったですか。 (はい・どちらでもない・いいえ)
- 6 自分から進んで学習することができましたか。 (はい・どちらでもない・いいえ)
- 7 自分のもめてひかって周囲も練習できましたか。 (はい・どちらでもない・いいえ)
- 8 反立ちと協力して、なかよく学習できましたか。 (はい・どちらでもない・いいえ)
- 9 反立ちとお互いに教えたり、助けたりしましたか。 (はい・どちらでもない・いいえ)

◎下の質問について、「はい」か「いいえ」について○をつけ、「いい」に○をつけた人は、「それはどんなことだったか」ご記入ください

- 10 今日の体育の授業で、反立ちに声をかけてもらいましたか。 (はい いいえ)
- ◆それはどんなことでしたか。
[] (はい・どちらでもない・いいえ)
- ★それは役に立ちましたか。 (はい・どちらでもない・いいえ)
- 11 今日の体育の授業で、反立ちに声をかけましたか。 (はい いいえ)
- ◆それはどんなことでしたか。
[] (はい・どちらでもない・いいえ)
- ★それは役に立ちましたか。 (はい・どちらでもない・いいえ)

仲間づくりの形成的評価票



仲間づくりの形成的評価票

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	平均
あなたのグループは、今日取り組んだことを解決することができましたか。	2.35	2.66	2.77	2.85	2.43	2.43	2.78	2.79	2.86
あなたは、グループのみんなでお互いに助け合ったり協力し合ったりして取り組んでいますか。	2.30	2.66	2.81	2.85	2.43	2.79	2.50	3.00	2.68
あなたのグループは、互いの意見や考えを尊重して取り組んでいますか。	3.00	3.00	3.00	3.00	2.89	2.86	2.93	3.00	2.87
あなたのグループは、互いの意見や考えを尊重して取り組んでいますか。	3.00	3.00	3.00	3.00	2.83	2.68	2.79	2.68	2.84
あなたは、グループのみんなでお互いに助け合ったり協力し合ったりして取り組んでいますか。	2.95	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	2.95	3.00
あなたは、グループのみんなでお互いに助け合ったり協力し合ったりして取り組んでいますか。	2.79	2.86	2.82	2.83	2.71	2.89	2.71	3.00	2.85
あなたは、グループのみんなでお互いに助け合ったり協力し合ったりして取り組んでいますか。	2.93	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	2.96	3.00
あなたは、グループのみんなでお互いに助け合ったり協力し合ったりして取り組んでいますか。	2.99	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	2.99
あなたは、グループのみんなでお互いに助け合ったり協力し合ったりして取り組んでいますか。	2.82	2.89	2.94	2.86	2.82	2.83	2.81	2.89	2.89

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	平均
あなたは、グループのみんなでお互いに助け合ったり協力し合ったりして取り組んでいますか。	2.38	2.68	2.79	2.85	2.43	2.78	2.39	2.98	2.66
あなたは、グループのみんなでお互いに助け合ったり協力し合ったりして取り組んでいますか。	2.91	2.88	2.94	2.88	2.82	2.91	2.86	2.98	2.88
あなたは、グループのみんなでお互いに助け合ったり協力し合ったりして取り組んでいますか。	2.88	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	2.96	2.98	2.92
あなたは、グループのみんなでお互いに助け合ったり協力し合ったりして取り組んでいますか。	2.88	2.93	2.96	2.96	2.86	2.95	2.94	3.00	2.92
あなたは、グループのみんなでお互いに助け合ったり協力し合ったりして取り組んでいますか。	2.95	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	2.98	3.00	2.99
あなたは、グループのみんなでお互いに助け合ったり協力し合ったりして取り組んでいますか。	2.82	2.89	2.94	2.86	2.82	2.83	2.81	2.89	2.89

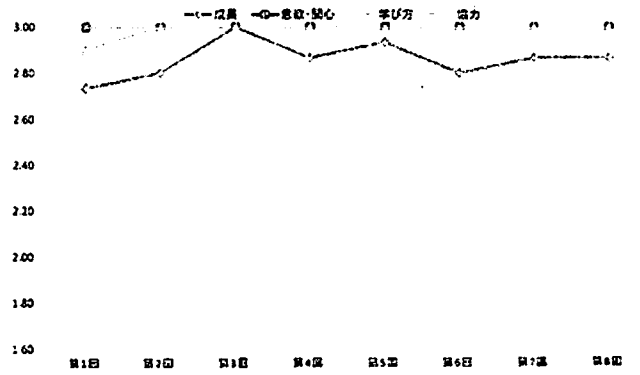
総合

◎今日の体育の授業について感想します。下の1~10について、あなたはどのように思いましたか。
当てはまるものに○をつけてください

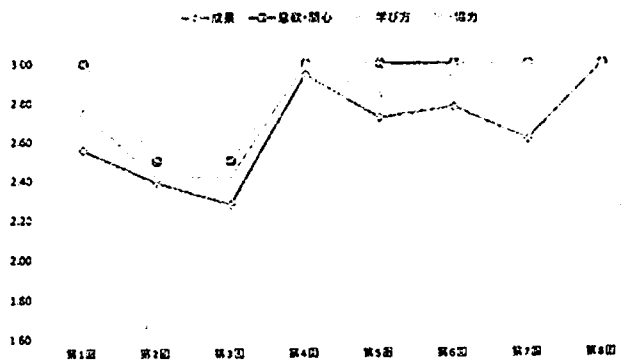
- 1 あなたのグループは、今日取り組んだことを解決することができましたか (はい・どちらでもない・いいえ)
- 2 あなたは、グループのみんなでお互いに助け合ったり協力し合ったりして取り組んでいますか (はい・どちらでもない・いいえ)
- 3 あなたのグループは、互いの意見や考えを尊重して取り組んでいますか。 (はい・どちらでもない・いいえ)
- 4 あなたのグループは、互いの意見や考えを尊重して取り組んでいますか。 (はい・どちらでもない・いいえ)
- 5 あなたは、グループのみんなでお互いに助け合ったり協力し合ったりして取り組んでいますか。 (はい・どちらでもない・いいえ)
- 6 あなたは、グループのみんなでお互いに助け合ったり協力し合ったりして取り組んでいますか。 (はい・どちらでもない・いいえ)
- 7 あなたは、グループがひとつになったように感じましたか。 (はい・どちらでもない・いいえ)
- 8 あなたは、グループのみんなでお互いに助け合ったり協力し合ったりして取り組んでいますか。 (はい・どちらでもない・いいえ)
- 9 あなたは、今日取り組んだ運動をグループ全員で楽しめたことがありましたか。 (はい・どちらでもない・いいえ)
- 10 あなたは、今日取り組んだ運動をグループ全員で楽しめたことがありましたか。 (はい・どちらでもない・いいえ)

形成的授業評価グラフ(上位児と下位児別)

上位

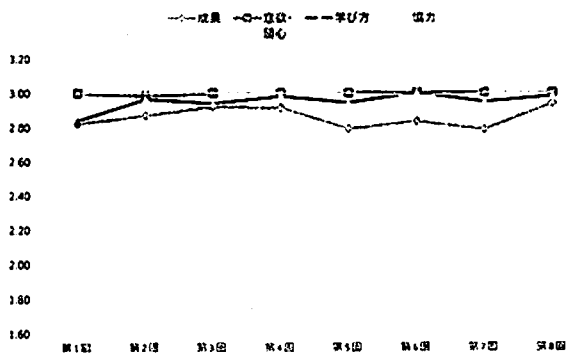


下位



形成的授業評価グラフ

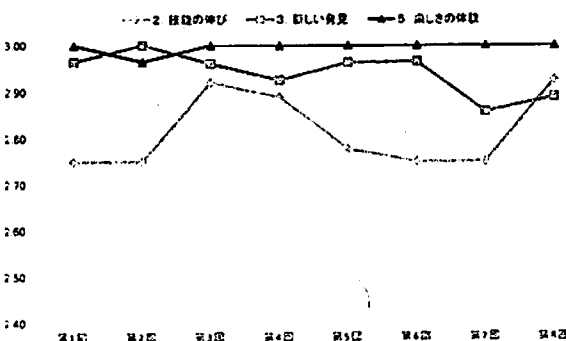
形成的授業評価(マット運動)



形成的授業評価

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	平均
1. 目標の体験	2.75	2.88	2.88	2.93	2.83	2.79	2.75	3.00	2.82
2. 技量の伸び	2.75	2.75	2.92	2.88	2.78	2.75	2.75	2.93	2.81
3. 新しい発見	2.98	3.00	2.98	2.93	2.96	2.98	2.88	2.89	2.94
4. 指一杯の運動	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00
5. 楽しさの体験	3.00	2.96	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00
6. 自主的学習	2.89	3.00	2.96	3.00	2.98	3.00	2.93	2.98	2.98
7. めあてをもった学習	2.79	2.93	2.92	2.96	2.93	3.00	2.98	3.00	2.94
8. なかよく学習	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00
9. 協力的学習	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	2.96	3.00	3.00	3.00
	2.90	2.94	2.96	2.97	2.92	2.94	2.92	2.98	2.94

できた！わかった！楽しい！



	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	平均	
1. 目標の体験	成果	2.82	2.87	2.92	2.91	2.79	2.83	2.79	2.94	2.86
2. 技量の伸び		3.00	2.98	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00
3. 新しい発見		2.84	2.98	2.94	2.98	2.94	3.00	2.95	2.98	2.95
4. 指一杯の運動	意欲・関心	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00
5. 楽しさの体験		3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	2.98	3.00	3.00	3.00
6. 自主的学習	学び方	2.84	2.98	2.94	2.98	2.94	3.00	2.95	2.98	2.95
7. めあてをもった学習		3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	2.98	3.00	3.00	3.00
8. なかよく学習		3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	2.98	3.00	3.00	3.00
9. 協力的学習	協力	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	2.98	3.00	3.00	3.00
総合		2.92	2.95	2.97	2.97	2.93	2.95	2.93	2.98	2.95

マット運動 学習カード (第1時)
～仲間とのかかわり～

月 日
6年3組 番 名前

学習の流れを知り、自分が「組み合わせたい技」を見つけよう。

できる技

仲間に言ってもらいたいこと

学習中、仲間に () と言ってもらえる
とうれしいです。

学習中、仲間に () と言ってもらえる
と役に立つと思います。

- ①前転 ②後転 ③開脚前転 ④開脚後転 ⑤大きな前転 ⑥跳び前転
⑦伸膝後転 ⑧側方倒立回転 ⑨倒立前転 ⑩ロンダート
⑪倒立ブリッジ ⑫前方倒立回転跳び※これら以外にもあれば書いてください。

今日組み合わせたい技	次の時間に組み合わせたい技
①	①
②	②
③	③

動きをそらえてみるの自分の課題 (～が課題だったから次の時間は～)

- 参考になる言葉
- ・合図
 - ・大きく
 - ・技
 - ・腰
 - ・高く
 - ・動き
 - ・膝が曲がっている
 - ・静止
 - ・できる
 - ・遠く
 - ・肘
 - ・できない
 - ・勢い
 - ・タイミング
 - ・練習方法
 - ・手足の伸び

マット運動 学習カード (第2～4時)
～仲間とのかかわり～

月 日
6年3組 番 名前

組み合わせたい技を練習しよう。

今日組み合わせたい技	
1	()
2	()
3	()
4	()

- ①前転 ②後転 ③開脚前転 ④開脚後転 ⑤大きな前転 ⑥跳び前転
⑦伸膝後転 ⑧側方倒立回転 ⑨倒立前転 ⑩ロンダート
⑪倒立ブリッジ ⑫前方倒立回転跳び※これら以外にもあれば書いてください。

練習方法	
を	番の練習方法で行った。
を	番の練習方法で行った。
を	番の練習方法で行った。
①マットを重ねる ②坂道をつくる ③マットの角を使う ④肋木で壁登り逆立ち ⑤肋木で倒立前転 ⑥エバーマットで壁倒立 ⑦エバーマットで側方倒立回転 ⑧ゴムひもを使って側方倒立回転 ⑨補助倒立 ⑩跳び箱を使って跳び前転 ⑪3人組倒立ブリッジ ⑫足 手 目のマーク※これら以外にもあれば書いてください。	

仲間に言ってもらったこと

学習中、 さんに () と言っ
てもらったことがうれしかったです。

学習中、 さんに () と言っ
てもらったことが役に立ちました。

自分の課題
(課題だけではなく、その課題を解決するためにはどうしたらいいのかも書きましょう。)

マット運動 学習カード (第5~7時) 月 日
 ~仲間とのかかわり~ 6年3組 番 名前

仲間と動きをそろえた演技をしよう。

わたしのグループは、動きをそろえるために、
 () を工夫する。

グループの仲間の名前	技の番号	技の番号	技の番号

- ①前転 ②後転 ③開脚前転 ④開脚後転 ⑤大きな前転 ⑥跳び前転
 ⑦伸膝後転 ⑧側方倒立回転 ⑨倒立前転 ⑩ロンダート
 ⑪倒立ブリッジ ⑫前方倒立回転跳び※これら以外にもあれば書いてください。

練習方法	
を	番の練習方法で行った。
を	番の練習方法で行った。
を	番の練習方法で行った。
①マットを置ねる ②坂道をつくる ③マットの角を使う ④助木で壁登り逆立ち ⑤助木で倒立前転 ⑥エバーマットで壁倒立 ⑦エバーマットで側方倒立回転 ⑧ゴムひもを使って側方倒立回転 ⑨補助倒立 ⑩跳び箱を使って跳び前転 ⑪3人組倒立ブリッジ ⑫足 手 目のマーク※これら以外にもあれば書いてください。	

仲間に言ってもらったこと	
学習中、	さんに () と言ってもらったことがうれしかったです。
学習中、	さんに () と言ってもらったことが役に立ちました。

自分の課題
(課題だけではなく、その課題を解決するためにはどうしたらいいのかも書きましょう。)

マット運動 学習カード (第8時) 月 日
 ~仲間とのかかわり~ 6年3組 番 名前

仲間と動きをそろえた演技をしよう。

わたしのグループは、動きをそろえるために、
 () を工夫する。

グループの仲間の名前	技の番号	技の番号	技の番号	技の番号

- ①前転 ②後転 ③開脚前転 ④開脚後転 ⑤大きな前転 ⑥跳び前転
 ⑦伸膝後転 ⑧側方倒立回転 ⑨倒立前転 ⑩ロンダート
 ⑪倒立ブリッジ ⑫前方倒立回転跳び※これら以外にもあれば書いてください。

練習方法	
を	番の練習方法で行った。
を	番の練習方法で行った。
を	番の練習方法で行った。
を	番の練習方法で行った。
①マットを置ねる ②坂道をつくる ③マットの角を使う ④助木で壁登り逆立ち ⑤助木で倒立前転 ⑥エバーマットで壁倒立 ⑦エバーマットで側方倒立回転 ⑧ゴムひもを使って側方倒立回転 ⑨補助倒立 ⑩跳び箱を使って跳び前転 ⑪3人組倒立ブリッジ ⑫足 手 目のマーク ※これら以外にもあれば書いてください。	

仲間に言ってもらったこと	
学習中、	さんに () と言ってもらったことがうれしかったです。
学習中、	さんに () と言ってもらったことが役に立ちました。

自分はマット運動の学習を通して何ができるようになった？

57

後転 ステップカード

		年 級 名 前 ()		
10級	ゆりかごができる	1	手の平で両手をしっかり握ることができ、背中を丸めて前後に3回ゆれることができる。	1
9級	大さなゆりかごができる	1	背中を丸めて立つ（しゃがみ立）ことができる。	2
8級	後転ができる	1	両手をしっかり握ることができ、両手でマットをしっかりと押すことができる。	3
7級	後転ができる（溜むところに留め）	1	足を揃えて立つ（しゃがみ立）ことができる。	1
6級	安定した後転ができる（溜むして2回）	1	しゃがんだ状態から、速くにおしりを落とすことができる。	2
5級	両脚後転ができる	1	両手でマットをしっかりと押すことができる。	3
4級	段差を利用した伸脚後転ができる	1	足を右に大きく開いて両脚を揃えることができる。	1
3級	伸脚後転ができる	1	両脚の姿勢から、速くにおしりを落とすことができる。	2
2級	伸脚後転ができる	1	両手でマットをしっかりと押すことができる。	3
1級	伸脚後転ができる	1	足を揃えて立つ（しゃがみ立）ことができる。	1

側立 ステップカード

		年 級 名 前 ()		
10級	カエルの足打ちが空回りでできる（溜むついでも良い）	1	目が高く上がったカエルの足打ちが3回できる。	1
9級	両手り逆立ちができる	1	両手をしっかりと握ることができ、手と手の間を見ることができ、両足を揃えていて、足並の姿勢になることができる。	2
8級	両手り逆立ちができる	1	両手をしっかりと握ることができ、手と手の間を見ることができ、両足を揃えていて、足並の姿勢になることができる。	3
7級	両手り逆立ちができる	1	立ちの姿勢から、目を抑えて速くにおしりを落とすことができる。	1
6級	両手り逆立ちができる	1	立ちの姿勢から、目を抑えて速くにおしりを落とすことができる。	2
5級	両手り逆立ちができる	1	立ちの姿勢から、目を抑えて速くにおしりを落とすことができる。	3
4級	両手り逆立ちができる	1	立ちの姿勢から、目を抑えて速くにおしりを落とすことができる。	1
3級	両手り逆立ちができる	1	立ちの姿勢から、目を抑えて速くにおしりを落とすことができる。	2
2級	両手り逆立ちができる	1	立ちの姿勢から、目を抑えて速くにおしりを落とすことができる。	3
1級	両手り逆立ちができる	1	立ちの姿勢から、目を抑えて速くにおしりを落とすことができる。	1

マット運動 ステップカード

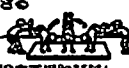
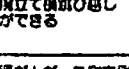
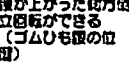
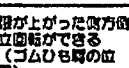
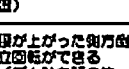
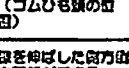
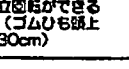
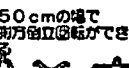
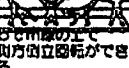
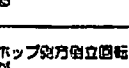
		年 級 名 前 ()		
10級	ゆりかごができる	1	カエルの足打ちが3回でできる（溜むついでも良い）	1
9級	ゆりかごができる（マットに両手に触す）	1	両手り逆立ちができる	2
8級	後転ができる	1	両手り逆立ちができる	3
7級	後転ができる（溜むところに留め）	1	両手り逆立ちができる	1
6級	安定した後転ができる（溜むして2回）	1	両手り逆立ちができる	2
6級の技が全てできる				
5級	両脚後転ができる	1	両手り逆立ちができる	3
4級	段差を利用した伸脚後転ができる	1	両手り逆立ちができる	1
3級	伸脚後転ができる（脚曲げてスタート）	1	両手り逆立ちができる	2
2級	伸脚後転ができる	1	両手り逆立ちができる	3
1級	後転倒立ができる	1	両手り逆立ちができる	1

前転 ステップカード

		年 級 名 前 ()		
10級	ゆりかごができる	1	カエルの足打ちが3回でできる（溜むついでも良い）	1
9級	前転ができる	1	両手り逆立ちができる	2
8級	前転ができる	1	両手り逆立ちができる	3
7級	前転ができる	1	両手り逆立ちができる	1
6級	前転ができる	1	両手り逆立ちができる	2
5級	前転ができる	1	両手り逆立ちができる	3
4級	前転ができる	1	両手り逆立ちができる	1
3級	前転ができる	1	両手り逆立ちができる	2
2級	前転ができる	1	両手り逆立ちができる	3
1級	前転ができる	1	両手り逆立ちができる	1

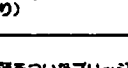
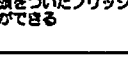
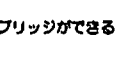
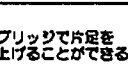
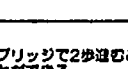
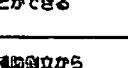
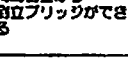
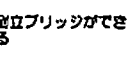

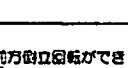
側方倒立回転 ステップカード

年 組 名 前 ()

10級		支持での川跳びができる ・両手を離れた状態から、マットの反対側に跳ぶことができる。	1
			2
			3 合格
9級		両手をしっかりと置くことができる。 ・手と手の間を閉めることができる。 ・足を入れ替えて、マットの反対側に着地することができる。	1
			2
			3 合格
8級		腰が上がった側方倒立回転ができる (ゴムひも腰の位置) ・バンザイの姿勢から正面に両手を握手することができる。 ・ゴムひもにぶれずに、腰を高く上げることができる。 ・足一足の順に着地し、両手を離れた状態で起き上がることができる。	1
			2
			3 合格
7級		腰が上がった側方倒立回転ができる (ゴムひも腰の位置) ・バンザイの姿勢から正面に両手を握手することができる。 ・ゴムひもにぶれずに、腰を高く上げることができる。 ・足一足の順に着地し、両手を離れた状態で起き上がることができる。	1
			2
			3 合格
6級		腰が上がった側方倒立回転ができる (ゴムひも腰の位置) ・バンザイの姿勢から正面に両手を握手することができる。 ・腰をまっすぐに伸ばすことができる。 ・足一足の順に着地し、両手を離れた状態で起き上がることができる。	1
			2
			3 合格
5級		腰を伸ばした側方倒立回転ができる (ゴムひも腰上30cm) ・バンザイの姿勢から正面に両手を握手することができる。 ・腰をまっすぐに伸ばすことができる。 ・足一足の順に着地し、両手を離れた状態で起き上がることができる。	1
			2
			3 合格
4級		50cmの場で側方倒立回転ができる ・バンザイの姿勢から正面に両手を握手することができる。 ・腰は高く、膝をまっすぐに伸ばすことができる。 ・足一足の順に着地し、50cmの中で起き上がることができる。	1
			2
			3 合格
3級		5cmの棒の上で側方倒立回転ができる ・バンザイの姿勢から正面に両手を握手することができる。 ・腰は高く、膝をまっすぐに伸ばすことができる。 ・足一足の順に着地し、5cmの棒の上で起き上がることができる。	1
			2
			3 合格
2級		ホップを入れ側方倒立回転ができる ・ホップを入れバンザイの姿勢から正面に両手を握手することができる。 ・腰は高く、膝をまっすぐに伸ばすことができる。 ・足一足の順に着地し、5cmの棒の上で起き上がることができる。	1
			2
			3 合格
1級		ロンダートができる ・ホップを入れバンザイの姿勢から正面に両手を握手することができる。 ・空中で両足を揃えることができる。 ・足た方向を向いて、両足を揃えて着地することができる。	1
			2
			3 合格

ブリッジ ステップカード

年 組 名 前 ()

10級		頭をついたブリッジができる (補助あり) ・両手をしっかりと置くことができる。 ・頭をついた状態で補助してもらい背中を反らすことができる。 ・ピタ、1、2と静止することができる。	1
			2
			3 合格
9級		頭をついたブリッジができる ・両手をしっかりと置くことができる。 ・頭をついた状態で背中を反らすことができる。 ・ピタ、1、2と静止することができる。	1
			2
			3 合格
8級		ブリッジができる ・両手をしっかりと置くことができる。 ・頭をつかずに、両手・両足で身体を持ち上げ背中を反らすことができる。 ・ピタ、1、2と静止することができる。	1
			2
			3 合格
7級		ブリッジで片足を上げることができる ・両手をしっかりと置くことができる。 ・頭をつかずに、両手・両足で身体を持ち上げ背中を反らすことができる。 ・片足を上げて、ピタ、1、2と静止することができる。	1
			2
			3 合格
6級		ブリッジで2歩進むことができる ・両手をしっかりと置くことができる。 ・頭をつかずに、両手・両足で身体を持ち上げ背中を反らすことができる。 ・2歩進むことができる。	1
			2
			3 合格
5級		補助倒立から倒立ブリッジができる ・補助倒立をすることができる。 ・補助をもらいながら、倒立の姿勢から背中を反って両足を離す。 ・ブリッジの姿勢で、ピタ、1、2と静止することができる。	1
			2
			3 合格
4級		倒立ブリッジができる ・立った状態から両手を握り、背中を高く上げることができる。 ・倒立の姿勢から、背中を反って両足を離すことができる。 ・ブリッジの姿勢で、ピタ、1、2と静止することができる。	1
			2
			3 合格
3級		側面より高いところで倒立の姿勢ができる。 ・倒立の姿勢から、背中を反って高いところに両足を離すことができる。 ・両手を上げたまま起き上がることができる。	1
			2
			3 合格
2級		側方倒立回転ができる ・立った状態から両手を握り、倒立をすることができる。 ・背中を反ってブリッジの姿勢で着地し、起き上がることができる。 ・倒立→ブリッジ→起き上がるの動作をスムーズに行うことができる。	1
			2
			3 合格
1級		ハンドスプリングができる ・助走をつけて、バンザイの姿勢から両手を持ってマットに着くことができる。 ・倒立の姿勢から、背中を反らせることができる。 ・両手をマットから突き放し、両足を離すことができる。	1
			2
			3 合格

1 単元名 器械運動「マット運動」～仲間とのかかわり～

2 単元について

(1) 一般的特性

器械運動はマット、鉄棒、跳び箱の器械、器具を使った技に取り組む運動である。マット運動は、「回転系」「技巧系」からなり、逆さまになったり、回転したりするなど、非日常的な動きを基にして成り立っている。それらの動きをする中で、いろいろな技に挑戦したり、新しい技ができるようになったりしたときに、楽しさや喜びを味わえる運動といえる。

(2) 児童から見た特性

児童にとっては、マットの上で転がったり、逆さまになったりすることが楽しい運動である。また、今できる技の完成度を高めたり、できそうな新しい技に挑戦したりするところにもマット運動の楽しさがある。ただし、児童によっては、技ができなかったときに楽しさを味わえなかったり、技の失敗時に痛みをとめない、恐怖感をもったりする場合がある。しかし、それを乗り越え、技ができるようになったときの喜びは大きく、その経験が次の技への意欲につながる運動である。

3 児童の実態

(1) 診断的評価 (男子15名 女子14名 計29名)

①情意面 はい…3点 どちらでもない…2点 いいえ…1点

たのしむ	楽しく勉強	3.00	14.83 (+)	で	いろいろな運動の上達	3.00	13.45 (0)
	丈夫な体	3.00			できる自信	2.76	
	心理的充足	2.93			運動の有能感	2.55	
	情一杯の運動	2.97			自発的運動	2.90	
	明るい雰囲気	2.97			授業前の気持ち	2.76	
まなぶ	めあてをもつ	2.97	14.28 (+)	まもる	ルールを守る	3.00	14.90 (+)
	工夫して勉強	2.86			自分勝手	2.93	
	時間外練習	2.69			失敗を認める	2.97	
	他人を参考	2.93			先生の話を聞く	3.00	
	友人・先生の励まし	3.00			約束ごとを守る	3.00	

②情意面 (運動有能感) よくあてはまる…5点～まったくあてはまらない…1点

身体的有能さの認知	Q1	3.83	統制感	Q12	4.93	受容感	Q7	4.86
	Q10	3.59		Q3	4.97		Q6	5.00
	Q2	4.07		Q4	4.66		Q9	5.00
	Q8	2.86		Q11	4.79		Q5	4.97

- ・身体的有能さの認知・・・運動ができるという自信
- ・統制感・・・練習をすれば、努力をすればできるようになるという自信
- ・受容感・・・仲間から認められているという自信

②技能面 (29名中できた人数)

前転	後転	大きな前転	側方倒立回転	補助倒立
23名	21名	16名	11名	21名

③ 知識、思考・判断面 (映像を見て)

1. 側方倒立回転の映像をみて技のポイントを書きましょう。

- ・足手手足16
- ・膝を伸ばす15
- ・手足が伸びている11
- ・バンザイ5
- ・視線は手と手の間4
- ・腰が高い3
- ・50センチ幅で回転している2
- ・勢い2
- ・着地の時に手はスタート方向1
- ・ホップする1

2. 映像をみて「もっとこうしたらよくなる」と思ったことを書きましょう。

- ・膝を伸ばす20
- ・腰を高く10
- ・手足を伸ばす9
- ・バンザイ6
- ・足手手足5
- ・視線1

3. 練習方法

- ・川脱び13
- ・エバーマット12
- ・馬をまたぐ練習3
- ・小マットを超えて3
- ・ゴムひも3
- ・補助倒立2
- ・マークを使う(手足目)1

4. 伸膝後転の映像をみて技のポイントを書きましょう。

- ・膝が伸びている17
- ・着手は腰の横9
- ・お尻を遠くに8
- ・マットをグッと押している3
- ・素早く回転する1
- ・足をそろえる1

5. 映像をみて「もっとこうしたらよくなる」と思ったことを書きましょう。

- ・膝を伸ばす20
- ・お尻を遠くに10
- ・足をそろえる2
- ・勢いをつける5
- ・着手は腰の横3
- ・マットをグッと押す2

6. 練習方法

- ・大きなゆりかご7
- ・後転をする6
- ・フッシュ立ち5
- ・帽子を挟む4
- ・ブリッジ3
- ・マットを重ねる3
- ・坂道をつくる2
- ・背支持倒立

7. 跳び前転の映像をみて技のポイントを書きましょう

- ・着手を遠くに10
- ・ふとこを大きく7
- ・大きく前に跳ぶ6
- ・腰を高く5
- ・足がそろっている3
- ・両足踏切3
- ・膝を伸ばす3
- ・手足が伸びている2
- ・バンザイ1

8. 映像をみて「もっとこうしたらよくなる」と思ったことを書きましょう。

- ・足をそろえる9
- ・大きく前に跳ぶ9
- ・着手を遠くに7
- ・腰を高く6
- ・両足踏切6
- ・ふところを大きく3
- ・手足を伸ばす2
- ・膝を伸ばす1
- ・踏み切り時にもつとはねる1

9. 練習方法

- ・跳び箱を置いて跳び越す21
- ・大きな前転5
- ・マットを重ねて跳び越す2
- ・うさぎ跳び2
- ・手押し車1
- ・帽子を挟む1
- ・ロイター板を使って跳ねる練習1
- ・ゴムひも1

10. 映像をみて倒立前転の技のポイントを書きましょう。

- ・膝が伸びている7
- ・倒立姿勢を経て前転7
- ・目線4
- ・空中にいる時間を長く3
- ・頭のつき方3
- ・手の置き方2
- ・回転スピードを調整2
- ・腰を高く2
- ・足をそろえる2
- ・腕で体をささえている1

11. 「もっとこうしたらよくなる」と思ったことを書きましょう。

- ・膝を伸ばす7
- ・両足をそろえる6
- ・倒立姿勢から前転4
- ・体をまっすぐに2
- ・首から回転する1
- ・首を入れる1
- ・腰を高く1
- ・手のつき方1
- ・腕で体を支える1
- ・手足が伸びている1

12. 練習方法

- ・補助倒立から18
- ・壁倒立7
- ・エバーマット3
- ・手押し車3
- ・坂道をつくる1

(2) 考察

診断的評価の結果から、どの項目においても高い数値を示していることがわかる。子供たちは、体育の学習の学び方やルールをよく理解し、楽しんでいることがわかる。これは、八ヶ崎小学校の体育科研究の成果であると推測される。

運動有能感の調査では「統制感」「受容感」については、高い数値を示していることから、認め合う環境を大切にしつつ、努力をすればできるようなスモールステップを用意しておけば、さらに有能感が高まると考える。さらには、ペア学習やグループ学習を通して仲間を励ましたり、仲間を励まされたりしながら活動することで技能や意欲が向上していくと推測される。

技能面の調査結果から、基本的な技はある程度習得できていることがわかる。しかし、発展技につなげていくためにはさらにポイントを細かく伝える必要があると感じる。

4 仮説への迫り方

高学年ブロック 作業仮説

運動の特性に触れる学習財を活用すれば、個人や集団の技能が高まり、生き生きと活動することができるだろう。

(1) 指導観

本単元では、仲間とのかかわりを通して、「わかる」「できる」を個人だけではなく、仲間と共有させるために「シンクロマット」を行わせたい。本単元における「かかわり」とは、「運動を通して仲間とかわる」「互いのよさを認め合う」ということとする。

「シンクロマット」には自分以外の仲間と協力しないと達成できない課題が必然的に生まれる。仲間と手足の伸びを合わせたり、高度な技に挑戦したりすることで技能と意欲の向上を図りたい。マット運動を苦手とする児童も、他の児童が補助としてかかわったり、励まして意欲を喚起させたりできるので、学習意欲が高まり自分の課題に向かって何度も挑戦すると考えられる。そこで、「わかる」を保障するためにそれぞれの技能ポイントを合格基準としたスモールステップの学習表を全員に配付し、自分が取り組む技の技能ポイントをいつでも確認できるようにする。また、ペアの友だちに自分が見てほしい技能ポイントを申告してから試技を行うようにする。「できる」を保障するために、ドリル学習では回転する感覚や腕支持感覚、逆さ感覚を身に付けられるように繰り返して行っていく。さらには、より技を美しく見せるためにつま先までピンと伸ばすことも指導していく。また、単元後半では、はじめにシンクロマットを行い課題をつかみ、ペアやグループで練習方法を考えて互いに協力して解決を目指す。そして、最後にもう一度シンクロマットを行い、練習したことの結果を確認させる。

(2) 学習財

①ドリル学習財

①	手押し車前転	手押し車から足を投げ出して大きな前転をする。腕支持と膝を伸ばした大きな前転の感覚を身に付けることを目的とする。
②	うさぎ跳び前転	両手→両足→両手→両足→跳び前転とうさぎ跳びで移動後に跳び前転をする。うさぎ跳びの踏み切りを生かすことで膝を伸ばすことによるスピードのコントロール、腕での体の支え、なめらかな回転の感覚を身に付けることを目的とする。
③	跳び箱を使った前転	跳び箱を跳び越えたり、跳び箱から跳んだりすることで高さのあるところから前転をする感覚を身に付けることを目的とする。
④	補助倒立前転	両手を振り下ろして倒立し、補助してもらい、両手と視点が三角形になることや、両肩に自分の体重がのることを意識させる。頭、首を順にマットに接点して前転する。逆さ感覚、腕支持感覚、回転感覚を身に付けることを目的とする。
⑤	倒立ブリッジ (補助あり)	倒立姿勢から両足をマットにつけ、背中や腰を浮かせてブリッジをする。腕支持感覚や逆さ感覚を身に付けることを目的とする。

②課題解決学習財

【2～3時間目】

ア. 回転系の技をペアで練習

イ. グループで動きをそろえる(シンクロマット)

【3～4時間目】

ア. 倒立系の技をペアで練習

イ、グループで動きをそろえる（シンクロマット）

【6～8時間目】

ア、グループで動きをそろえる（シンクロマット）

イ・ペアで練習

ウ、グループで練習

エ、グループで動きをそろえる（シンクロマット）

5 単元の目標

技能	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な回転技や倒立技に取り組み、自己の能力に適した技を安定してできるようにする。 ・できるようになった技を三つ以上組み合わせることができる。
態度	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に進んで取り組み、約束を守り、助け合って運動しようとする。 ・場の使い方や器械・器具の安全に気を配って運動しようとする。
知識、思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ・練習の際、スモールステップの段階を知り、自分の力に応じた場を選んでいる。 ・技のポイントを知り、自分の演技を振り返ったり、仲間の演技にアドバイスしたりしている。

知識	①練習の際、スモールステップの段階を知り、自分の力に応じた場を選んでいる。	「お互いにポイントを伝え合おう。」
思考	②技のポイントを知り、自分の演技を振り返ったり、仲間の演技にアドバイスしたりしている。	「どの技を組み合わせればスムーズか考えよう。」
判断	③連続技を行う際、技のポイントを知り、自分の力にあった技を組み合わせている。	「後ろ向きから前に向きを変える方法を考えよう。」

6 体育の学力と指導言語

	体育の学力	指導言語
技能	①基本的な回転技が安定してできる。	「足そろえて。」（前転） 「お腹を空けて。」（大きな前転） 「床をグッ！」（開脚前転） 「手は耳の横。」（後転） 「ひざピン！」（開脚後転）
	②基本的な倒立技が安定してできる。	「視線は手と手の間。」（倒立系） 「片足を勢いよく振り上げる。」（補助倒立） 「床をグッ！」（安定した腕立て横跳び越し） 「バンザイ、手、手、足、足。」（側方倒立回転）
	③できるようになった技を三つ以上組み合わせることができる。	「間もビタ。」 「指先までピン。」 「ビタ、1、2、。」
態度	①技を高めたり、組み合わせたりする楽しさや喜びに触れることができるよう、器械運動に進んで取り組もうとしている。 ②約束を守り、友達と助け合って技の練習をしようとしている。 ③器械・器具の準備や片付けで、分担された役割を果たそうとしている。 ④運動する場を整備したり、器械・器具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。	「〇〇がよくできたね。次は□□しよう。」 「友達のよくなったところを認めよう。」 「危険がないか周囲を確認してから動こう。」 「同じ向きで始めよう。」 「前の人と間隔を空けてスタートしよう。」 「(マットの) 耳を入れよう。」 「(マットは) 持ち上げて運ぼう。」

7 指導計画 器械運動（マット運動） 8時間（本時7/8）

時間	ねらい	学習財等		評価		
		ドリル学習財	課題解決学習財	技	態	知思
1	・学習のオリエンテーションをして、ねらいや進め方などを理解させる。	・学習のねらいや進め方 ・既習の確認 ・準備の仕方や後片付けの仕方など ・試しのシンクロマット ・練習方法の確認（ドリルのやり方も含む）			①	
2	・回転系の感覚を身に付けさせる。 ・できる技を3つ以上の技を組み合わせて動きをそろえさせる。	手押し車前転 うさぎ跳び前転 跳び箱を使つての跳び前転 補助倒立前転 補助倒立ブリッジ（3人組）	回転系 ・開脚前転 ・開脚後転 ・大きな前転 ・跳び前転 ・倒立前転 ・伸膝後転	・シンクロマット ・グループで練習 ・3つ以上の技の動きをそろえる		③
3	・倒立系の感覚を身に付けさせる。 ・できる技を3つ以上組み合わせる動きをそろえさせる。		倒立系 ・倒立（補助倒立） ・側方倒立回転 ・倒立ブリッジ		①	①
4	・できる技を3つ以上組み合わせる動きをそろえさせる。		シンクロマット① 単技の習得・習熟（ペア） グループで練習 シンクロマット②		②	②
6	・できる技を3つ以上組み合わせる動きをそろえさせる。					③
7	・できる技を3つ以上組み合わせる動きをそろえさせる。					③
本時						①
8						①

8 児童への安全・安心な活動のための指導事項と八ヶ崎小のフェアプレー8か条

児童への安全・安心な活動のための指導事項	「八ヶ崎小のフェアプレー8か条」
①ドリル運動の際には、チームごとの運動する場所やチーム内での役割分担を確認、指導する。 ②マットの運び方、仲間の技を見る場所などを確認する。 ③練習の際には、お互いに声をかけ合い、児童同士の衝突がないように配慮する。 ④怪我人や体調不良者等がある場合は、保護者や養護教諭等とも連携しながら、本人の様子により可能な範囲で、見合う、教え合う、励まし合う場面で参加できるように配慮する。 ⑤練習の際、手の着き方や手を着く場所などを指導する。	⑥仲間が失敗したら励まし、積極的に応援します。 ⑦運動のルールやマナーを守ります。 ⑧用具の準備や後片付けを自分から進んでやります。 ⑨用具や場所の安全を確かめて運動します。 ⑩集合や移動を素早くします。 ⑪審判や係などの役割を自分からやります。 ⑫勝敗の結果を受け入れます。 ⑬最後まで全力でプレーします。

9 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・できるようになった技を3つ以上組み合わせることができる。 (技)
- ・約束を守り、友達と助け合つて技の練習をしようとしている。 (態)
- ・技のポイントを知り、自分の演技を振り返ったり、仲間の演技にアドバイスしたりしている。 (知、思・判)

(2) 展開

時配	過程	学習内容と活動	○指導と支援 ◇評価（体育の学力）	備考
11	あいさつ 準備運動 ドリル学習	・学習の場の準備をする。 ・使う部位をほぐす。 <ドリル学習財> ①手押し車→前転 ②うさぎ跳び前転 ③跳び箱を使った前転 ④補助倒立前転 ⑤倒立ブリッジ ・集合して健康観察をする。	○場の安全を確認するために、用具を正しく置くように指導する。 ○一つ一つの運動が正しくできるようになるため、運動のポイントを伝えながら指導する。 ○顔色や服装を確認する。	マット 滑り止め CDマット
	健康観察 課題確認	仲間と動きをそろえた演技をしよう。		
27	課題解決 学習	<課題解決学習財> ・シンクロマット①		見本資料

7	反省 まとめ 片付け 整理運動 あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで練習 ・グループで練習 ・シンクロマット② ・反省を行う。 ・協力して片付けをする ・使った部位をほぐす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の課題に合った場で練習をするようにさせる。 ○技のポイントを確認させ、意識して取り組めるように助言する。 ○練習する場に悩んでいる児童にはステップ表を用いて、目標を明確にもたせる。 ○技と技の間は静止し、一つ一つの技を丁寧に取り組むように助言する。 ◇できるようになった技を3つ以上組み合わせることができる。(技) 「努力を要する児童への指導」 ○習熟度にあった組み合わせ技を行うように声をかける。 ○できていない技のポイントを指示物で確認させる。 ○互いにアドバイスができるように支援する。(言語活動) 	※付カード
---	----------------------------------	--	---	-------

12